



# 尼崎市私立幼稚園連合会の 歴史を訊く

## \*お話

岡野敏雄 先生 (学校法人 七松学園 理事長) P.50～53

濱名 昭 先生 (学校法人 あけぼの学院 前理事長) P.54～57

## \*聞き手

中西利栄 先生 (くいせようちえん 園長)

高橋とみ子 先生 (慈愛幼稚園 園長)

## 当時の私立幼稚園が 尼崎の幼児教育を担った



学校法人 七松学園 理事長

岡野 敏雄（おかの としお）先生

「私立幼稚園をつくったほうがよい」

中西 岡野先生は、七松幼稚園を開かれるまでは、何をされていたんですか？

岡野 当時は敗戦直後で世の中が混乱していましたからね、いろんな仕事を渡り歩いていたんです。西宮の水道局水道課に勤めていたことなんです。幼稚園を経営していた親戚が、「尼崎には幼稚園がない。きみがやりなさい。オルガンはあげるから」と言う。開園する場所についても、「うちの隣の土地を譲ります」と言ってくれる方がいて。私、戦時中は飛行機会社に勤めていましたが、友人たちの何人かは戦死しました。こういう話が重なったからには、園をつくらなくてはいけない、と決心したんです。昭和28年、私が28歳のときでした。

高橋 園児は何人から始まりましたか？

岡野 20人くらい。現場の先生は3人くらいでしたね。

中西 尼崎市私立幼稚園連合会自体は、昭和25年に組織されたんですよね。当時の市長さんが、尼崎市の財政から考えて、

公立の幼稚園をつくるより私立幼稚園をつくったほうがよい、という方針を示して、私立幼稚園がどんどん増えていった、とお聞きしています。昭和30年度の会員名簿によると、このときに19園が加入していたんですね。

### 勉強会の開催がより盛んになっていった

岡野 尼崎市私立幼稚園連合会は、中西興一先生（中西利栄先生の父）が、会長として大舵を取ってくださったんです。私のほうが2つくらい年齢が上ですけれどね（笑）。連合会は発足当時から加入園間で研究会をしたり、あちらこちらで勉強会をしたり、熱心に行っていました。だから、園と園とがすぐに仲良くなりました。最初は園長同士がお互いの園に通い合って「園長研修」のような形で始まり、仲が温まったら職員を交えていくようにしていましたね。

中西 当時の研修の写真を拝見していると、はじめに写った写真もあれば、みなさん浴



衣を着て、お酒を楽しそうに飲んでおられる写真もありますね。

高橋 昭和50年代になると、世の中が落ち着いてきたのもあってか、勉強会の開催がより盛んになりましたよね。尼崎市だけではなく、全国的にそのような風潮でした。市がバックアップしてくれ、市教育委員会の先生方を講師にして、いっしょに何泊かの研修を催したり。

岡野 そうでしたね。現在のように、こども園や預かり保育の制度がなかったので、夏休みの間は園自体がすかっと休みでした。そんな状況もあって、研修会が盛んになったんでしょうね。

### 尼崎の幼児教育を担った私立幼稚園

高橋 ところで、手元の資料によると、昭和61年には、尼崎の私立幼稚園は35園に増えています。とはいえ、この頃には、昔からあった幼稚園の廃園も目立ちましたね。

岡野 戦後、昭和22年頃に爆発的に子どもが増



尼崎市は給食展開が全国より早かった。

えました。神社や寺など、学識者がいる所に頼んで、子どもを預かってもらったのが、戦後の幼稚園の始まりでした。尼崎で一番古くからあった難波幼稚園、潮江幼稚園、ミード幼稚園など、昔からの幼稚園も、地域でその役割を終える、廃園となっていきました。

中西 尼崎市は、給食展開が全国より早かったですね。

岡野 そうですね。だいたいの園は、園長の自宅でお米炊いてやっていました。

高橋 先生、私、思い出しました。当時、園に給食費を持って行く代わりに、お米を袋に入れて持って行っていました。

岡野 お米を大きなタンクに入れて、下から出して炊いていました。あれは特殊な炊飯器でしたね。

高橋 子どもが増えると、2部制にしていた幼稚園もあったとか。

中西 小学校を新しくつくるために、市の財政が幼児教育まで回せなかったとか…。

岡野 それで、私立幼稚園に役割を委ねたんです。

高橋 当時のいくつかの要望書の中に、市長や教育長の言葉として「尼崎の幼児教育は、私立に世話になって」という文言が散見されます。これは、私たち尼崎市の保育関係者の誇りですし、後世にも伝えていきたいですね。

士、園同士が協力してこそ、できることがあると思います。  
中西 初代の先生方のご苦勞があつて、今の尼崎市私立幼稚園連合会有るとつくづく思います。岡野先生、本当にありがとうございます。

### 家族ぐるみで付き合う園と職員

中西 私が子どもどものとき、電車のストライキがしょっちゅうあったと記憶しています。  
高橋 そうですね。ストがあると先生たちが出動できないので、幼稚園や自宅に泊まってもらったこともありましたね。

岡野 はい。ありましたね。  
中西 私の園でも、先生にご飯を作っておいていました。だから、当時の先生たちは、「(私の)おばあちゃんにご飯を食べさせてもらって…お世話になって…」と、退職してからもずっと訪ねてきてくれるんです。

岡野 そう、つながりがありましたね。人は一人では大したことはできません。人同

市との協力体制があって、今の尼崎の保育があります。感謝ですね。



## 子どもの将来を考え続ける 私立幼稚園の努力と苦労



学校法人 あけぼの学院 前・理事長  
濱名 昭 (はまな あきら) 先生

### 尼崎幼稚園教員養成所の設立

中西 濱名先生は、昭和28年から23年間、兵庫  
県庁に勤務されていたと伺っています。

濱名 51年の3月に県庁を辞めました。23年  
間、県庁に勤めていたので、西播から北  
播、日本海から淡路島まで兵庫県の状  
況が大体分かっていましたね。この経験  
が、後に尼崎市私立幼稚園連合会の会長  
を務めるうえで役立ちました。

高橋 お母様の濱名ミサヲ先生が、尼崎幼稚園  
教員養成所を始められた？

濱名 ご存知のとおり、尼崎市は廃虚の中から  
立ち上がってきました。当時は、公立の  
幼稚園が3つか4つしかありませんでし  
た。そんな中で、私立幼稚園は、濱名ミ  
サヲが尼崎市連合婦人会会長を務め、そ  
のうち幼稚園を開いたら資格を持つ保育  
者がいないからということで、資格を取得  
する尼崎幼稚園教員養成所を、市の認可  
を得て始めました。

高橋 そうなんです。

濱名 当時通って来られた先生方の中には、昼

は西宮や伊丹などで働き、夜は夜学に通  
いに来る、という方もいらっしやいまし  
た。それほど、保育にかける情熱があっ  
たんです。

### 私立幼稚園に求められていたこと

中西 当時、私立幼稚園に求められていたこと  
は、どのようなものでしたか？

濱名 子どもの将来を考え、1年保育、2年保  
育以上に、3年保育と手厚い保育を用意  
していることでしょうか。公立では、そ  
こまでできないので。その状況は、今で  
も変わらないと思っています。

中西 開園された当初、どのような苦労が  
あったのでしょうか。

濱名 園児募集が大変でした。当時は公立幼稚  
園が人気で、1年保育が普通でした。そ  
して、公立幼稚園は当時から保育料が安  
かった。そうすると、みんな公立幼稚園  
に行くでしょう。私立幼稚園には園児が  
集まりにくいわけです。



中西 そうだったんです。

濱名 妻(濱名弘子先生)は、保護者から「公  
立なら子どもが幼稚園に通う靴が買え  
る」と言われたこともあるそうです。だ  
からこそ、公立に負けない質のよい保育  
を目指しました。園の定員60名で3クラ  
ス、保育者は音楽の先生を含めて、全員  
で4名という小規模で園が始まりました。  
子どもの名札も何もかも、全部私た  
ちの手作りでしたね。私たち夫婦は、園  
舎の2階で生活をしていたような状態で  
した。

高橋 まさに、生活を保育に捧げておられた。

濱名 県庁で培った人脈も保育に生かすことが  
できました。例えば、県庁時代の友達か  
送ってくれたホテルを保育室に放し、  
夜、子どもたちとホテル狩りをやったこ  
ともあります。保育を自由に設定でき  
るのが楽しかったですね。

### 保護者への感謝

中西 子どもの送り迎えはどうされていたんで



レンゲ咲く田んぼの間を、手をつないで連れて帰った。

すか？

演名 保育者が手分けしてご家庭まで送っていただきました。大変ご苦労だったと思いますよ。そのうち、「バス」ができました。といっても、近所のパン屋さんから借りた小型バンで、家が遠い子どもを10人くらい乗せて送り迎えしましたね。家が近い子どもは、レンゲがまわりに咲く田んぼの間を、手をつないで連れて帰ってました。

高橋 牧歌的な光景が目の前に浮かびます。

演名 保護者にも、たいへん助けてもらいました。子どもを連れて家の前まで行くと、「おながが空いたでしょう」と食べ物を出してくださったり、園に遅くまで残って翌日の保育の準備などをしていたら、差し入れを届けてくださったり。特に印象に残っているのに、こんなエピソードがあります。夏休みが明けたら、園庭に背丈くらいの草が生えているんです。その草を抜かないと、園の夏休みが明けない。2学期を始められないんですよ。だから、職員総出で草抜きをする。そうし

たら、保護者が冷たいものを差し入れてくださったものです。

### ますます期待される私立幼稚園

中西 戦後の復興と共に、国が豊かになり、子

どもの数が増えてきましたね。

演名 そうですね。その頃から、当たり前だった1年保育を2年保育にしようかという風潮が全国的に高まってきて、私の園ではいち早く2年保育に切り替えました。すると、熱心な家庭は「私学へ」という心変わりが生まれてきて、年度を重ねるたび、入園面接の前夜に並ぶ保護者の列が伸びていきました。私たちは、夜中に列の整理をするのが通例でした。保育に求められる内容は、どんどん変わっていきます。これからも私立幼稚園がその使命を果たしていくことを願って止みません。

高橋 ありがとうございます。



「私学」へとってもらえるよう  
これからも子どもを中心に考えねば。

## おふたりに話を訊き終えて

夏のある日、歴代の会長をお務めくださった、七松幼稚園の岡野先生、武庫愛の園幼稚園の濱名先生とお会いして、創立当初の思いやたくさんの苦労話をお訊きしてきました。90歳前後というお歳には見えないうらいとでもお元気で、昔のことを思い出しながら、懐かしそうにお話ししてくださいました。思わず笑ってしまうことや、初めて訊くことなどもあり、いっしょに笑ったり、感動したり、とても和やかなひとときでした。ありがとうございました。

おふたりとも今は幼稚園の現場から離れておられますが、お孫さんや息子さんがその意志を継ぎ、ますます素敵な幼稚園へと発展されています。

歴代の会長といえば、いつも穏やかで冷静な優しい高橋佐千夫先生を思い出します。生きておられたらこの場でいっしょにお話しできたのに、若くして亡くなられたことは、尼崎市私立幼稚園連合会にとって、本当に残念なことでした。この場をお借りして、高橋先生にお礼を申し上げます。たくさんのご指導、本当にありがとうございました。

(中西利栄)